

オンライン学会と対面学会 (DE研)

吉田 尚史
駒澤大学



本学会の研究会をはじめ、多くの学会において、コロナ禍によるオンライン学会と、その後の対面学会やそれらのハイブリッドによる学会運営を模索されていると思われる。本稿では、本学会のデータ工学研究会 (DE研) と、関連する情報処理学会データベースシステム研究会 (DBS研) を中心としたデータベース分野において、毎年開催しているデータ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM: Forum on Data Engineering and Information Management, 通称デウムまたはディーム) におけるオンライン・対面のハイブリッド具合の最前線を述べる。

1. オンライン学会運営

コロナ禍に入った直後に行った「第12回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム (DEIM2020)」(2020年3月2~4日) が恐らく最初のオンライン学会となったと思われる。その経験は DEIM2020 の Web サイトや文献 [1] 等より閲覧可能なので繰り返さないが [2]、このとき以来、オンライン学会のノウハウは、それぞれの研究会や研究分野において、蓄積されていった。主に、Zoom や Webex といったオンライン会議ツールの活用であった。場所を問わず学会発表、聴講、質疑応答ができ、また録画によって時間を超えて対応ができる反面、雑談やネットワーキング (人と人とのつながり、共同研究の模索等) がしづらいという側面があった。

2. ハイブリッド学会への模索

その後、オンライン学会と対面学会のハイブリッドを模索した。DEIM2021 [3] では、各セッションにオンライン会議システムと質疑応答の

ためにパラレルセッションの数だけマイク・スピーカ・PC等の設備を準備したが、結局、数か月先の行動制限に関する見通しが立たないため (緊急事態宣言等)、結果としてオンラインのみの学会運営を強いられた。多くの研究会で同様だったのではないと思われる。

DEIM2022 [4] では、参加者に雑談を効果的にしてもらうことを目的として、oVice [5] を導入した。Web上の自分のアイコンを操作し、アイコン同士の位置が近い参加者同士が音声によるコミュニケーションができる、いわゆるスペーシャル (Spatial) 系のツールの一種である。これによって、席の近くの参加者同士で発表について議論したり、通りがかった知り合いの研究者同士で近況を語り合ったりといった、いわゆる雑談に近いことは実現できた。

オンライン発表に慣れた学生も多い。結果として対面での発表やポスター発表などを経験せず卒業した学生も多かったのではないかと思う。やはり対面コミュニケーションで交換できる情報は多いため、学会の使命としては、やはり発表の機会とネットワーキングの機会の両方を提供すべきと考えた。

3. 今後の学会運営

そこで今後の学会運営の方針として、我々は「直列ハイブリッド形式」の学会を DEIM2023 (2023年3月5~9日) [6] において実施した。これは、オンライン学会部分と対面学会部分を、まるで乾電池の直列つなぎのように連続して実施する形式である。オンライン学会部分では、いわゆる一般発表を10パラレルのセッションで構

DEIM2023	
プログラム概要	
<ul style="list-style-type: none"> スケジュールは今後変更される可能性があります。 新型コロナウイルス感染症の状況などにより全面オンライン開催になる場合は、インタラクティブセッションは中止し、それ以外の5日目のイベントは4日目にオンラインにて開催されます。 	
1-3日目	
時刻	プログラム詳細はこちらから: 3月5日(1日目)・6日(2日目)・7日(3日目)
9:30 9:50	オープニング
10:00 12:10	一般発表 (パラレルセッション・オンライン)
13:30 15:40	一般発表 (パラレルセッション・オンライン)
15:55 18:05	一般発表 (パラレルセッション・オンライン)
19:00 21:00	学生企画 (3月5日)

図 1. 直列ハイブリッド形式におけるオンライン学会部分のセッション構成

成し、オンライン会議ツールを用いたいわゆるオンライン学会そのものである。半日の移動日を含めた後半の対面学会部分においては、ポスターセッション・チュートリアル・招待講演・授賞式などの対面で意味のあるセッション構成を行った。

今回はオンライン学会部分を3日間、対面学会部分を2日間、合計5日間としたが、期間についてはまだ検討の余地がある。今回の DEIM2023 は発表件数が 412 件（ロング口頭発表 341 件、ショート口頭発表 71 件、それらと重複して発表可能なポスター発表 343 件）と多数であったため、オンライン学会部分は3日間必要であった。結果として総参加者数 799 名であった。図 1 にオンライン学会部分のセッション構成を示す。

対面学会部分は、受付等を省略する工夫をした上で2日間開催とし、受付等を省略する工夫をした上で岐阜県長良川国際会議場において2日間開催し、約 500 名に御参加頂いた。1泊であったため、旅費や交通費の減額にも貢献できたのではないかと思う。図 2 に対面学会部分の

4日目	
時刻	プログラム詳細はこちらから: 3月8日(4日目)
13:00 14:30	チュートリアル (パラレルセッション・対面+中継)
14:45 16:15	チュートリアル (パラレルセッション・対面+中継)
16:30 18:30	ネットワーキング
5日目	
時刻	プログラム詳細はこちらから: 3月9日(5日目)
10:00 10:30	オープニング+スポンサー紹介
10:30 12:00	インタラクティブセッション(1)
13:30 15:00	インタラクティブセッション(2)
15:15 16:00	DBSJアワー
16:10 17:30	クロージング

図 2. 直列ハイブリッド形式における対面学会部分のセッション構成

セッション構成を示す。

これらについては現在、参加者より御意見を集めている。結果として、当初の目的は達成できたと思われる。本来の学会の使命としての発表の機会とネットワーキングの機会の提供について、基本的な方法は実現したが、今後、更に改良がなされるものと思われる。

参考文献

- [1] <https://db-event.jpn.org/deim2020/>
- [2] サイバーシンポジウムはいかに開催されたか, NII Today 第88号, <https://www.nii.ac.jp/today/88/2.html>
- [3] <https://db-event.jpn.org/deim2021/>
- [4] <https://event.dbsj.org/deim2022/>
- [5] oVice, <http://www.ovice.com>
- [6] <https://event.dbsj.org/deim2023/>